

林道に車を進めるが、林道の終点近くで、法面が崩壊して先に進めず、バックしてスペースのある所に駐車。その後、中津川に下降する。

中津川左俣の出合に行くとき、すぐ滝があり、ゴルジュを形成している。滝の中には直登できないものもあるが、滝のすぐわきを木の枝を利用して登ることができる。

ゴルジュを過ぎると、沢は明るくなる。そして沢の中は、倒木というより、伐採した時の残材が沢をうめつくして、歩きにくい。

沢に入って約一時間。西さん達が下降に使った右支沢との分岐となる。見逃してしまいそうな小さな沢である。

さらに進むと二俣。右沢の方がいくらか水量が多い。左沢へ歩を進める。

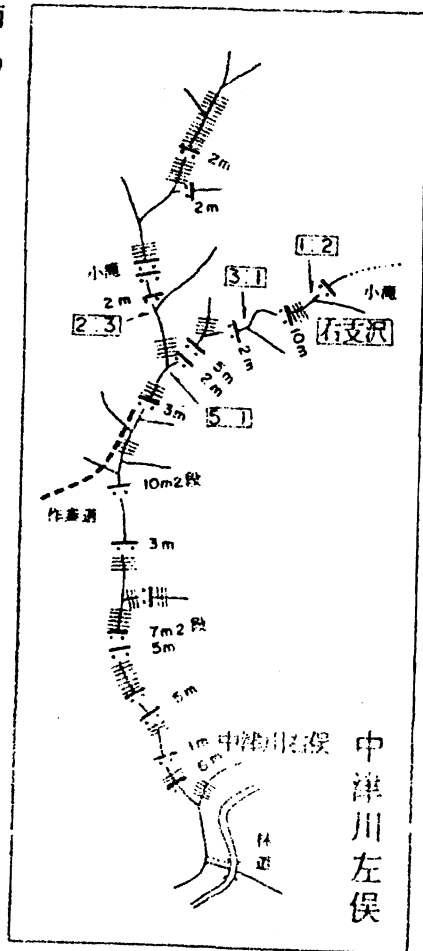
左沢に入ると、小滝がポツリ、ポツリとあるが、なんといっても、ナメ、ナメの連続である。いずれも花崗岩の風化したナメ床である。所々、流水の侵食作用により、花崗岩がトイ状にえぐられている箇所がある。

左沢に入って40分、傾斜もきつくなり、ヤブもかぶさってきた。瀧頭のような。遊行終了として、引き返すことにする。

この沢は、中間点あたりまで伐採され、おまけに沢は木で埋まっており、歩きにくい沢であった。

(記・

[タイム] 左俣出合(9:20)→右沢分岐(10:15)→終了(10:45)



ワサビ沢右俣

1986年8月25日

L:

12時30分、右俣の下降を開始する。この沢もやはりナメである。黒みを帯びた花崗岩で、ちょっと硬質。このナメはほとんど途切れることなく続き、途中にポツリポツリとナメ状の滝がある。

帰りの時間が気になるので、どんどんとぼす。特記することもなく、なんなく

二俣へ出た。あとはクモ沢を下降して、烏川の長い長い帰路へとつく。

(記・

[タイム] 下降開始(12:30)→下降終了(13:15)

ワサビ沢左俣

1986年8月25日

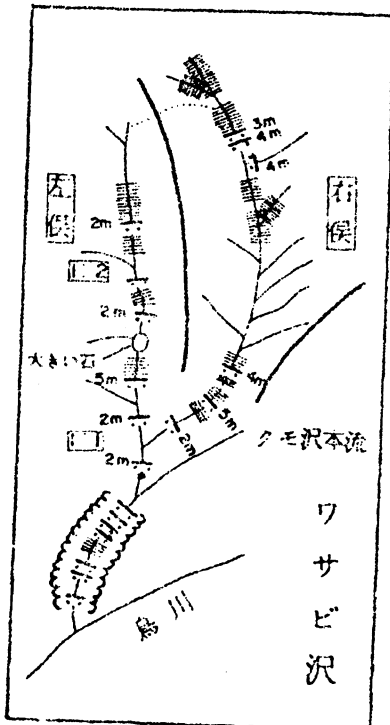
L

朝7時30分に、福島を出発。今日は機動力(?)パツグンのバイクである。烏川林道の終点までバイクで行き、そこから烏川を遡行してワサビ沢に入る予定である。

烏川林道は、8月4日の台風10号のツメ跡があちこちにあり、林道には落石がゴロゴロ。沢を渡るところは、流れ出した土石でツタツタ。それでも、バイクはスイスイと通りぬけてゆく。しかし、林道終点の約1km手前で、倒木が林道を塞いで、万事休す。バイクを置いて歩く。

烏川林道終点からは、烏川左岸の歩道を利用して歩くが、途中より道がわからなくなり、本流を遡行する。

途中、本流で釣をしている人に会う。本日の我々の目的を言って先に進めさせてもらおうとすると、「福島登高会」を知っているではないか。そればかりか、この



摺上川流域を調査していることまで知っており、「魚はこの沢にいるかね」と聞かれる有様。そんなことで、なんのトラブルもなく、先に進ませてもらう。

烏川本流を歩き始めて1時間40分、もう11時40分になっている。やっとのことでクモ沢出合である。長い長い行程ならぬ沢程であった。

クモ沢出合より、ゴルジュを越して15分。やっとのことで本日の目的地、ワサビ沢出合である。

さっそく遡行開始。2mの滝がかかり、二俣となる。左俣を遡行して右俣を下降することにして、左俣に入る。

滝は2mクラスのものポツリポツリであるが、この沢の特徴は、赤茶色から灰色の花崗岩のナメである。このナメは源頭まで続いた。